

e-ビーフNEWS 北の牧場から

February 2017

十勝の厳冬

なんて寒いでしょう。マイナス20℃が連日続いています。さすがここまで来るとホッペタが痛い。寒いと感じる前に痛いんですね。1月でここまで下がる事は余りなく、続くのは記憶にないです。良く晴れ上がった朝、お日様が昇る前にピーク(?)になり、空気が張り詰めたようにキーンとなります。朝の光で空気の水蒸気がキラキラ輝くダイヤモンドダスト現象が起こります。窓ガラスには、直径3センチの大きな霜の結晶(雪印マーク)が点々と育ちます。たくさん降った雪の道はサクサクの状態、雪が乾いた綿のように飛んでいきそうです。これから本格的な寒さが2月中まで続くのに、今からこれでは、どこまで下がるのかな。住宅地では、水道管や配水管が破裂して騒いでいます。車のエンジンもやっとブルンブルン言いながらやっとかかります。それでも、小学校では父兄の作った200mスケートリンクで、子供たちが明日のオリンピックを目指し、賑やかに滑っています。昨年から異常気象が続き、耐えている十勝です。



活動のお知らせ

1月27日(金) 14:00~16:30 道総研 畜産試験場にて肉牛飼養技術研修行われました。会長はじめ16名の参加で、活発に意見交換が行われました。

- ・黒毛和種の育成期における2番牧草サイレージ主体TMR給与技術 遠藤研究員
- ・道産牛肉のおいしさについて 大井研究員
- ・新年度 事業提案
交流意見交換会 泊)畜産技術交流施設「わかば荘」



NEWSばか読み

- 農地2割が相続未登録 東京4つ分93万ha
12/27:食糧自給障壁/農地解放へ
- 厚労省 違法残業月80時間で社名公表 12/27:労働の平均化必須
- 黒毛和牛GI基準設定/品評会2回受賞・25年継続生産 12/28:
- 熊本 鶏インフルエンザ国内7例目100万羽 12/28:ダブル災害複数化
- 東京食肉市場 和牛相場高値のまま取引終了 12/29:さてさて来年の相場は
- モンテローザ 食材の自社生産を拡大 稲作拡大 12/29:外食参入が刺激
- 雪印メグミルク アジアで大人用機能性ミルクを販売 12/29:輸出さまざま
- 北海道 21年までに有機農業3割増65000ha目標 12/30:施策は
- 中央畜産会 輸出和牛ロゴ変更「WAGYU」消える 1/3:日本語で
- 日本ジビエ協会設立 東京農大・麻布大学が旗振り
1/3:マニュアル化に繋がるか
- 農水省 荒廃農地広がる 年8000ha増28万ha 1/5:止める施策は
- Jミルク 単身者用飲料牛乳がコンビニで購入増
1/9:形態変えれば飲用も増える
- 日欧EPAチーズ・ホエー脱脂粉乳影響大生産過剰で日本市場狙う
1/10:地産地消
- 廃校利用の農家レストラン 全国で増加傾向 1/10:田舎を楽しもう
- ホクレン12月乳量前年割れ続く 定温・餌品質の影響 1/10:影響続くね
- 訪日客2400万人最高を5年連続で更新 1/10:
- サッポロHD タイでキャサバ原料のバイオ燃料を量産 1/10:技術を生かす

- 農水省 酪農長時間労働解消で搾乳ロボットに助成
1/11:技術が追いつくかな
- 東京リサーチ 北海道内の倒産件数が最少 1/11:景気回復か
- 農研機構 国産緑茶が中国茶(世界シェア74%)に比べ濃度が高い
1/12:良さ発掘
- マルキン11月 交雑1年2か月ぶりに交付決定 1/13:素牛高で財政転嫁
- 農水省 田畑面積403万ha前年2万ha減耕作放棄地・宅地増
1/13:根本施策無
- 農水省 県単位を廃止しイネの品種開発に民間開放 1/13:
- コンビニ人手不足で人件費負担増セブンはPBで収益増
1/13:コンビニも過渡期か
- 農水省 見直し圧力高まる中、転作助成の水準を維持
1/18:飼料米定着は如何に
- ヤマト、宮崎で路線バス使いクール便配送 1/18:相乗り効率化
- 農水省 生乳補給金で暫定法廃止し畜安法に統一 1/19:指定団体壊れる
- 農作物GAP取得遅れから五輪供給不足の恐れ 1/19:
- エアウォーター鹿追町で家畜糞尿で水素製造 1/20:再生エネの多様化
- リンゴなど青果物国内で供給不足 アジアで人気輸出増
1/21:国内品の味低下
- 北海道 河川敷の枯れ草燃料化でハウス加温 1/24:有価物に
- 米国小売チェーン ネット通販の伸びで大規模閉店 1/24:この波が日本に
- 米国 TPP永久離脱 1/25:日本国内の議論は何 大統領が変わればご破算
- スターゼンMP 青森工場に豚脱骨ロボット導入 1/25:ロボット社会が進む

東京直近NEWS (1/30 Shi-REPORT)

ホルス 1月枝肉相場は引き続き1000円台で相場形成。年始は、年末製造玉の各社在庫薄く年明け迎えており年始製造玉の引合いが強い状況であったものの、中旬以降は、年始玉が一巡したために引き合いがやや弱まった。時期的に上物の引合いから、日常アイテムに戻り冬休みも明け、赤身バラ系の切落し原料の一定の需要はあるが、上位部位が鈍くなった。2月以降も、赤身系の引き合いは堅調も価格が未だ弱い。バレンタイン時期にロインの問合せがややあるが、上位部位は引き続き弱く、バラ系も鈍い状態。枝相場はやや緩くなっているものの、末端量販の年度変わりの時期であり、ホルスから交雑や輸入へのシフトを計画している問合せも増えており需要へ不安要素。

経産牛 市場相場は下落傾向。ガリものの挽材原料枝相場が特に下げ基調。販売状況はホルス冷凍原料の大手からの価格対応が出ており加工原料としての経産自体の需要に影響している。モモの一部やカタロース系の引き合いが鈍くなってきておりスライス原料としての販促提案を実施している。挽材は相変わらず、国産としての売り場縮小から回復していない。相場はやや下げ傾向で流通しているものの、売り場縮小と輸入へのシフトから取戻しきれていないが、価格訴求で需要回復を目論みたいところ。生協筋などは、自社の産直原料などの在庫が潤沢でその在庫消化を優先している状況と聞き及ぶ。

左先生の畜産学研究NEWS

最近の新聞の話題は専らトランプ米国新大統領の一手一投足です。議会承認を経ないで済む大統領令を矢継ぎ早に打って、制度の違いもさることながら公約実現を図る速さに驚くばかりです。日本の経済に関わるTPPからの完全離脱と二国間協議に日本の政治がどう対処するのは農業生産者にとって大いに気掛かりです。自動車産業等を保守しようとする姿勢で日本の農業生産構造が補助金対応により歪められてきたことを繰り返したくないと将来を考える農業者は思うからです。わが国が同盟国を標榜してきたことがどう影響するか国内はもとより、世界が注目しています。e-びーふNews38号の学術情報は以下の通り「畜産技術」の内容です。

1. 畜産技術2016.12牛ゲノム研究の歩みと今後の展望(3)「黒毛和種不良因子のゲノム研究: その光と影(杉本喜憲:動物遺伝研)」

ウシの不良因子は常染色体劣性遺伝病でそのゲノム研究に関する3回の連載ですが内容はかなり難解です。1996年の黒毛和種不良因子(腎尿細管形成不全症)のゲノム解析では脂肪交雑育種価上位4頭が保因とされ、1998年に不良因子のない後代を正常と欠損変位とを遺伝子診断法で解析し選抜できるようになりました。その後2012年にSNP型情報から不良因子の検出へと展開して行きます。

2. 畜産技術2017.1:2-3 和牛4品種の持続的生産に向けて (佐藤英明、家改セ)

和牛は日本特有の肉用牛品種として知られていますが、ブラウンスイスやシンメンタル、韓牛、ショートホーン、アンガス種などの交配・改良の経緯を経て閉鎖育種に移行した歴史があります。和牛4品種の更なる振興には、ゲノム解析、ゲノム編集技術や繁殖性改善に向けたOPU技術の発展等が期待されます。

3. 畜産技術2017.1:4-12 和牛4品種 生産と経営の動向 (木村信昭、木村畜産技術士事務所)

わが国の和牛4品種とは黒毛和種、褐毛和種、無角和種、日本短角種を指し、2016年の総頭数は約160万頭、そのうち98%が黒毛和種。ホルスタイン種と黒毛和種との交雑種は52.4万頭でこれらを合わせて日本の牛肉生産資源です。わが国の牛肉の肉質は脂肪交雑重視で黒毛和種、褐毛和種の順に評価され、そのことが飼養頭数や枝肉価格にも反映しています。農畜産振興機構や農水省の近年の調査結果で去勢肥育牛の販売収入が生産費を上回るのは黒毛和種のみで、黒毛、褐毛両者とも生産費の中では素畜費が最大、次いで飼料費となっています。

4. 畜産技術2017.1: 13-16 和牛の育種改良の変遷と今後の展望 (大山憲二、神戸大院農)

黒毛和種は肉専用種として種雄牛を選抜するために直接検定、間接検定および現場後代検定を経て今日の枝肉肉質を獲得し、1世代9年間で枝重やロース芯面積などの増加率は6.5~9.6%に及びます。その反面黒毛和種は遺伝子頻度を高め近交係数が25%に迫り、遺伝的多様性を失いました。その他の和牛も同様の傾向ですが、それぞれの置かれた地域性を活かした遺伝的多様性を確保するシステムの維持が必要に思われます。

5. 畜産技術2017.1: 17-21 和牛肉の流通と品質 (入江正和、近大生物理工)

和牛の肉質評価は黒毛和種の脂肪交雑能の高さに依拠してきましたが、近年筋肉内脂肪含量が50%を超えるに及び肉質評価が見直され、近赤外分析などの技術により、脂肪の質的改善にシフトしました。最近の消費者の嗜好変化と共に褐毛和種や日本短角種の赤身肉が好まれるようになり、牛肉は単一品種で作るという日本独特の習慣に見直し掛かるかも知れません。

道総研 畜産試験場NEWS

「和牛繁殖牛・子牛の飼養管理 市場評価の高い子牛を育てるために④ 全6回シリーズ 道総研 畜産試験場 肉牛グループ 佐藤 幸信

子牛の胸囲を大きくするための飼養法改善

- 母牛の飼養法の改善(分娩前後の増飼)
- 子牛の初期発育の改善

母牛の飼養法改善(分娩前の増飼)

・高橋一男牧場(忠類和牛改良組合長)
黒毛和種繁殖育成農家

- 飼養頭数
 - 繁殖牛 67頭
 - 母牛 20頭
 - 育成牛 20頭
 (H26年5月現在)
- 労働力
 - 本人・父・母
- 草地面積
 - 採草地35ha
 - (25ha貸し出し)

※H12年度に酪農から黒毛和種繁殖育成農家

高橋牧場の問題点

- ① 繁殖牛の痩身
- ② 生まれる子牛の虚弱および低体重
- ③ 育成牛の発育不良および育成期間の長期化
- ④ 育成牛販売価格の低迷

繁殖牛のステージごとの群分け

一群管理から初産牛、産身牛、分娩予定牛、種付終了牛に群分け



分娩前の増飼を実施

産身牛には1日1kg程度の配合飼料(約1年間)
現在は分娩前後の増飼のみ実施中



増飼飼料の給与指針(分娩前)

	分娩前		分娩後(授乳期)		
	2月前	1月前	1月	2月	3月
配合飼料	1.0kg	1.5kg	-	-	-
乾草	全期間 8~10kg				
ミネラル飼料	全期間 50~100g				

配合飼料:CP18%のもの
人工飼育の農家のため授乳期の増飼はない

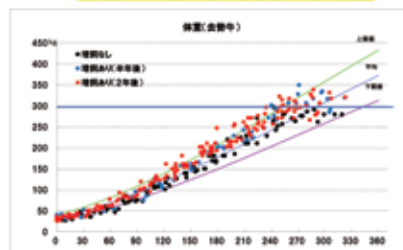
改善結果

生時子牛の状況変化

		H24年6月	調査頭数
子牛の	♂	26.6kg	5頭
	♀	25.0kg	1頭
胸囲(1~3)	♂	14	10頭
	♀	10	3頭

体重: 去勢4.6kg
メス4.2kg
胸囲: 去勢0.8
メス1.0

母牛の分娩前の増飼による子牛の発育改善



胸囲(全齢牛)

